

MOTTAINAI ARIGATAI

JUST OUR PHILOSOPHY



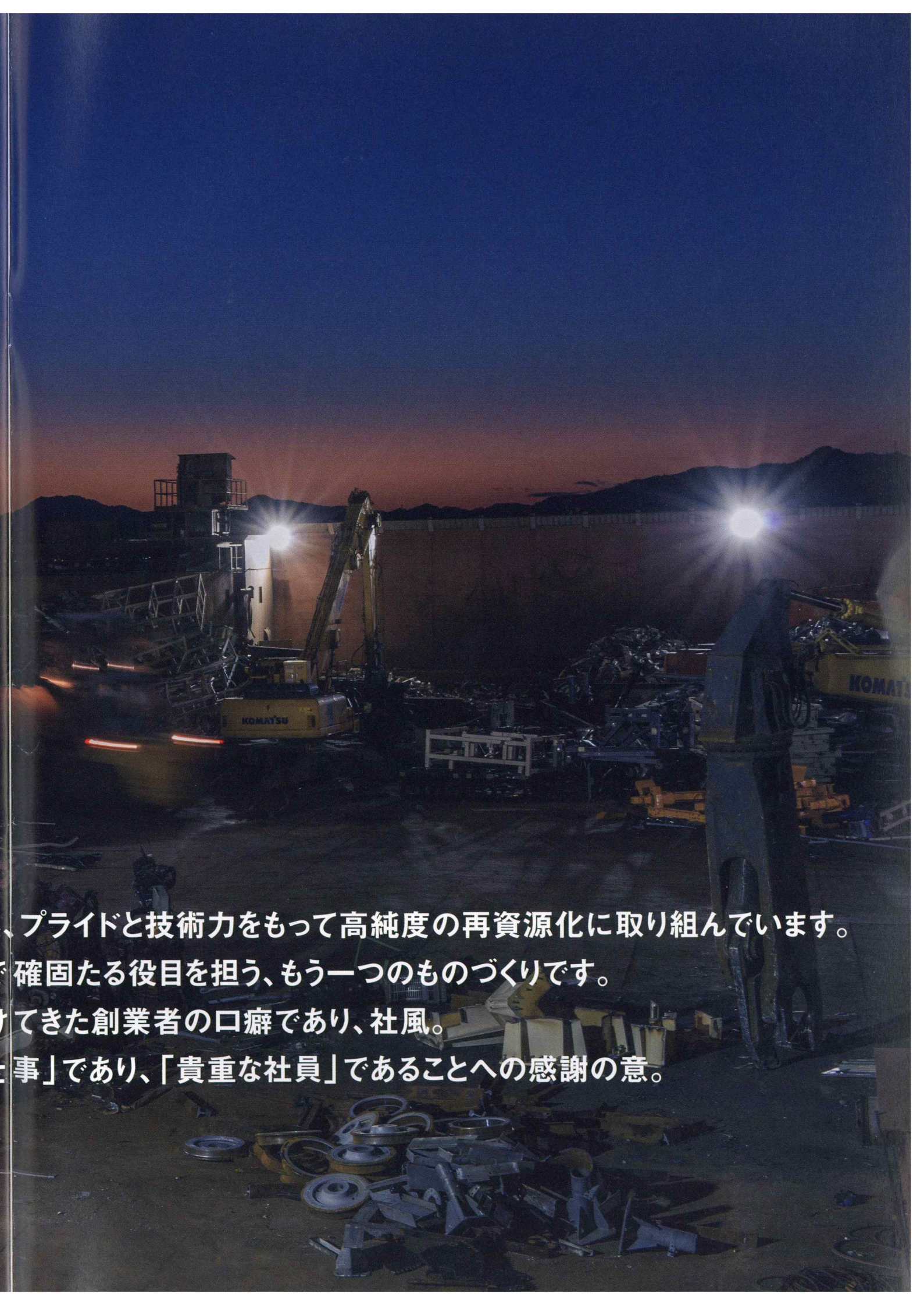


もう一つのものづくり

HIRAKINは人や社会が「ゴミ」と思うものに「資源価値」を見だし、プライドと技術力をもって高純度の再資源化に取り組んでいます。製品として店頭には並ぶことはないけれども、天然資源に乏しい日本で確固たる役目を担う、もう一つのものづくりです。

「MOTTAINAI(もったいない)」は、「釘一本見逃すな」と言い続けてきた創業者の口癖であり、社風。
「ARIGATAI(ありがたい)」は、有ることが難しい、すなわち「尊い仕事」であり、「貴重な社員」であることへの感謝の意。
どちらもHIRAKINの仕事の根幹をなす、永久不変の哲学です。

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、2017年4月から、「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」をスタート。東京2020大会の入賞メダル(金・銀・銅)を、携帯電話など小型家電から抽出されるリサイクル資源で調達する取り組みを通し、持続可能な社会づくりを進めようという、画期的な国民参加型プロジェクトです。





代表取締役社長
平林 実

MINORU HIRABAYASHI

誰かがやらなければならぬ仕事だから、
自分がやる。そこに価値を見いだせる人が、
うちのドラフト1位です。

静脈産業という立ち位置

リクルートの学生さんが来たとき、まず「動脈産業」と「静脈産業」の話をします。建物や設備、商品などを作る側を「動脈産業」とすると、われわれのような片付ける側、リサイクル側は「静脈産業」と呼ばれる。

動脈産業によって作られた同じ量を静脈産業が片付けなければ、循環が滞り、立ち行かなくなってしまう。それぞれの町に、片付ける側の人があるから、町がきれいに保たれ、資源が循環する。われわれ静脈産業は緑の下の力持ち的な存在で、表だってきらきら輝いてはいないけれど、世の中に絶対必要な仕事なので重宝がられる組織になっ

ていく。人が捨てたものでも、誇りを持って「これは貴重な仕事だ」と取り組める人、作業服を汚してでも一生懸命に働ける人、暑い夏も寒い冬も黙々と仕事ができる人、そう

いった社員を事務所からサポートできる人。そこに価値を見いだせる人はこの業界では天才だし、うちの会社にとってはドラフト1位、みたいな感じかな。そういう人たちが活躍できる場所がヒラキンにはたくさんあるということです。

技術開発部門を持つ リサイクラー

静脈産業であるヒラキンとは、どういう会社か？ 大きく3つ挙げられます。一つ目は、技術開発部門を持っていること。自分たちで既製品を組み合わせたリ、機械そのものを考案したりして、オリジナルのリサイクルラインや仕組みを構築しています。

そんな研究開発の一例が、2008年に完成した「F B A S（固気流動層選別装置）」です。より効率的かつ高精度なミックスメタルの再資源化方法を追求し、岡山

大学、設備プラントメーカーと共同開発。世界で前例のない最新技術として評価され、2011年に「公益社団法人化学工業会 粒子・液体プロセス部会 2010年度技術賞」を受賞しました。

新入社員は現場からスタート

二つ目は、将来、営業や総務の職に就くとしても、入社したら最初に全員が現場を経験することです。事務方の社員もみんな現場を知っている。本場で働いている社員がトラックにもクレーンにも乗ったことがある。現場が分かっているところが特徴の一つであり強みであると思います。

世界に誇れる高品質

三つ目は、「量」ではなく「質」で勝負していること。ヒラキンの製品の質は、日本国内を含め世界中の素材メーカーから

高い評価をいただいています。

例えば、各工場のラインには必ず徹底的に手で選別したり分解したりする作業を組み込んでいます。「まだこんなことやってるの？」と驚かれますが、精度を上げるのに機械がいくら頑張っても95点ぐらいのところを、人の目と手が入ると、ほぼ100点の商品ができる。

例えば1トンの品物を、できるだけ精度良く、効率良く作って、高い価格で売られるために、あえて人の手と目を入れる。鉄も非鉄金属も希少金属もすべてそうやってきっちり分けてやる。どこに出しても恥ずかしくない仕上がりにする。それがヒラキンの伝統であり文化です。

学生さんにラブレター

1991年に「リサイクル法」ができて、追い風にのってどんどん仕事が忙しくなってきました。でも、いわゆる「3K」



(きつい、汚い、危険の頭文字からとった用語)の会社ですから、若い人は全然入って来ない。このままでは絶対に長続きしないと思って、若い人を探るにはどうしたらいいか考えました。「われわれの業界には若い人なんて来ないよ」と先輩に言われたけれど、会社の将来を考えると大卒が必要だと。

それで1994年からリクルートを始めました。ぼろぼろとでも学生さんから問い合わせが来て、自分で「ぜひ一度会いたい」と手紙を書いた。ラブレターですね。オフィスがまだない時代だったので喫茶店で会ったり。一人ずつ連絡を取りながらやって、「初めて採れた」みたいな感動を味わいました。

そのときに採用した人が、いま、各部署で中心となって活躍してくれています。それから毎年少しずつ採用して。うちの社員はみんな真面目で誠実、素晴らしい人たちです。

生き残るために大きな賭け

東京・大阪からちょっと遅れてやれば地方の企業は成り立つ時代がありました。中央を見て、そのうち自分たちはあれができるようになればいいということが通用した時代です。

ところが、あるときヨーロッパに行つて勉強して、時代が変わるということに気づいた。1996年にドイツで循環経済に関する法律ができて、翌年にドイツに視察に行つたときのことです。自分が予想もしなかった状況がありました。

業界の統廃合で、一番小さな会社でも従業員800人クラス、大きい会社では従業員4000人ぐらいの規模のリサイクルの会社しか存在しない。法律で定められたレベルを達成するには、大きい企業しか生き残れないという。ヒラキンクラスの会社はなかったんです。

ヨーロッパの環境に関する法律は、5年遅れで日本に反映されることに気づきました。1996年の5年後、2001年に「×リサイクル法」が日本にできるとすれば、ヒラキンは存続する側を選ぶのか、淘汰される側になるのか。今、決断して取り組まないと、生き残れない。1997年ドイツで覚悟を決めました。

そして読み通り、2001年に日本で家電リサイクル法が施行。ヒラキンは専用工場を作りしました。それがリサイクルファーム御津です。

従来のヒラキンはやってきたものとは全く違う、家電メーカーさんの目線が違うというリサイクルをしてほしいということが実現できるような工場。当時、利益数億円程度の会社が、20数億円かけて、誰もやったことがない、仕事の本場にあるのかどうかも分からないものに賭けるわけですから、理解されなくても仕方ありません。

でも自分は全然迷いがなかった。ドイツに行つて、それをやらなかったら、世の中に必要でなくなるといのが分かっていてからです。「うちのお父ちゃん、いい会社に行っているな」と言ってもらえる会社にする目標が自分の根底にあつて、解散という選択肢はなかった。

2001年3月31日に工場の許認可がとれて、4月1日に家電リサイクル法がスタート。何とかぎりぎり間に合つて、翌日から稼働したんです。

次の一手を常に考えて

それから15年。鉄中心だったヒラキンは、非鉄金属やミックスメタル、希少金属、プラスチック、家電・小型家電と、時代の要請を読み、次の一手を常に考えて成長してきました。

皆さん、自分の住んでいる町を見渡してみてください。まだまだリサイクルできていないものがいっぱいあるでしょう？ だから、研究しなければいけないものがたくさんあるんです。

例えば、太陽光発電は20年間というくらいでスタートした新しい制度です。つまり、20年後に何千万枚の太陽光パネルが廃棄されるということです。その仕事をうちがするかどうかは別として、できるように準備しておく必要がある。われわれの業界がしっかりとやっていることによって、太陽光パネルのゴミ問題を起こさないようにする。プロとしての責任だと考えています。

「えこ便」を立ち上げた背景

企業活動にとつて人口減少や企業の海外移転はマイナス要素です。国内の仕事のボリュームは間違いなく落ちてくる。では、どうやって仕事をキープしていくかと考えると、一般家庭から廃棄される物の中に、

グッドデザイン賞を受賞

「えこ便」は予想を上回るペースで会員数を増やしています。「家の中が片付いた」「困っていたので助かった」「ありがたい」と利用者の方から毎日のように言っていたとき、社会のニーズに合致した仕組みで地域に貢献できたという、大きな手ごたえがあります。

街づくりにスマートなゴミ出しをデザインした取り組みが評価され、2016年秋にグッドデザイン賞を受賞。続けて環境省の「グッドライフアワード」実行委員会特別賞を受賞したことで、マスコミにたびたび取り上げられ、えこ便の内容や意義はもとより、平林金属という会社に対して、より多くの方に関心を持っていただけるようになりました。

賞はあくまでも「結果」であつて「目的」としてはいたわけではありませんが、「リサイクルのプロとしてさらに誇りある仕事をしていこう」「もともと地域の人たちに喜ばれる存在になりたい」「時代に合った変化を目指そう」など、社員一人ひとりの学びや気づきにつながったことにはありがたく、大きな転換点になったと感じています。

みんなのリサイクルでオリンピックメダルを

日本は天然資源の乏しい国ですが、国内に存在する携帯電話や小型家電の中の

日本でのリサイクル関連の法整備	
1991年	リサイクル法 ※
2000年	循環型社会形成推進基本法 循環型社会の形成に関する基本原則を規定
2000年	容器包装リサイクル法
2001年	家電リサイクル法 ※
2001年	食品リサイクル法
2002年	フロン回収・破壊法 ※
2002年	建設リサイクル法
2005年	自動車リサイクル法 ※
2013年	小型家電リサイクル法 ※
2015年	フロン排出抑制法 ※

※ヒラキンの行うリサイクルに関する法律

われわれプロから見ると、「それは資源ですよ」というものがたくさん存在している。

家庭からの廃棄物は、市町村が一般廃棄物として処理するルールがあり、本来なら民間業者がする必要があるけれども、どう見ても「もったいない」という現状があるので、家庭からの物を、民間企業として資源化できるスキームを組んでいく、もしくは理解いただいた市町村と組んでやる。

さらに、廃家電の違法回収が横行し正規の回収が滞っている今の現実に対し、情報発信や受け皿づくりをすることで、社会に向けて正しいリサイクルを促していく。

そうした意図から2015年夏に産声を上げたのが、新規事業「えこ便」です。これまでの企業対企業のビジネスとは違うフィールドで、試行錯誤の部分もありつつ、環境省をはじめ、県、市、警察などの関係各所の理解協力をいただいて、岡山市に2カ所、米子市に1カ所の店舗をオープン、今後は岡山県、鳥取県に新たな店舗を展開していく予定です。

希少金属を合算すると、例えば金なら世界一の保有国になる。「天然鉱山」ならぬ「都市型鉱山」です。

それらは事業所や家庭にあつては意味をなさず、リサイクルされて初めて資源として生きる。どう回収率を上げるかという課題に、国も小型家電認定事業者も、知恵を絞って取り組んできましたが、現在、正規回収率は家電4品目で約50パーセント、小型家電で10パーセント。残念ながら目標には程遠い数値です。

空き缶と同じように、当たり前リサイクルに出す意識を、どうすれば浸透させられるのか。その課題に対するヒントを私はえこ便で学びました。「回収ではなく集積」という概念です。

えこ便では、利用者みずから家庭で不用になった小型家電を持ち込み、目に見える形で積み重なっていく、利用者が実感できる、まさに資源の集積です。最近、国と認定事業者との意見交換会でも提言させてもらった、大事な概念です。

2020年のオリンピック・パラリンピックでは、金・銀・銅メダルをリサイクル資源で制作することが決まり、そのための「都市型鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト」も正式決定しました。

東京2020大会を契機に、小型家電や電子機器のリサイクルが国民の常識になるように。ヒラキンもできる限り尽力したいと考えています。

HIRAKIN
SMILES

ヒロイン系子です。
映画「見えないから見えたもの」観てネ!

坊主頭で喝を入れ、ホームラン!
コミ、ナイスバッティング!

DJ デストラードカトウです。
祝賀会のたびに登場!

フットサルを楽しんでいます!
(2007年、第85回「国立」の得点王)

ヒラキンの「イロモ姉や、!
好きな金属は銀!

バーベキュー大会やりまっか!
(ちなみに役員です)

2016年日本リーグ盗塁王

「必殺! 二輪四輪解体人、

フリー! フリー! 就活!!!

MOTTAINAI
ARIGATAI



届ける(Re)生かす

「えこ便」で広がる
HIRAKIN 資源再生ネットワーク



えこ便

HIRAKIN (Re) NETWORK

えこ便とは

各ご家庭で不用になったものを、ヒラキンが分別回収し、再資源化するサービスです。

えこ便店舗や協力店に専用回収ボックス「eポスト」を常設、小型家電製品をはじめ、金属類、パソコン・携帯電話、古紙などを回収します。利用する方にとって、処分したいものや使わなくなったものもいつでも気軽に出来る便利なサービスであると同時に、自動的に正しいリサイクルの輪に加わっていただける、画期的な資源再生ネットワークです。



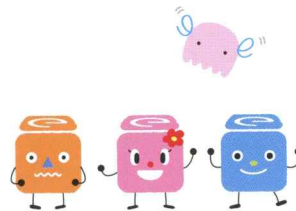
旗艦店 えこ便西古松局



えこ便安倍局



えこ便並木町局



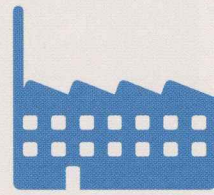
<http://ecobin.jp/>

徹底した再資源化システムで、世界に誇る高品質のリサイクル原料を創出

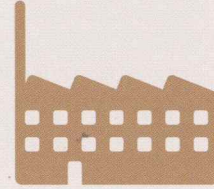
製品として出荷

さまざまな加工

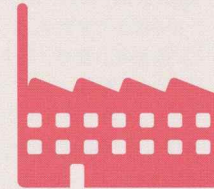
ヒラキンの守備範囲



素材メーカー〈鉄〉



素材メーカー〈非鉄〉



素材メーカー〈プラスチック〉

鉄・アルミ・銅・ステンレス・真鍮・鉛など主要金属をはじめ、希少金属類(金・銀などの貴金属、パラジウムなどのレアメタル)、プラスチック原料など約100種類の製品として、素材メーカー(鉄、非鉄、プラスチック)に出荷します。



手分解・選別・破碎・
切断・解体・圧縮

拠点8工場でさまざまな加工を組み合わせ、人の手と目、そして独自の機械設備による徹底分解と徹底選別により、純度の高いリサイクル資源を生み出します。



ヒラキンが扱う対象は、家電製品、OA機器、自動車など、街や工場で本来の役目を終えたモノ。その領域は、缶類から工場・プラントの大型設備機器まで、広範囲に及びます。

沿革

昭和31年	10月	平林久一人創業	平成15年	4月	山陰工場開設
昭和35年	7月	有限会社平林商店設立	平成16年	9月	岡山工場、港工場、水島営業所、ISO14001取得
昭和38年	11月	平林金属株式会社に社名及び組織変更	平成16年	7月	東岡山営業所、山陰工場、ISO14001取得
昭和42年	6月	旧本社工場新築	平成16年	8月	エヴァーワン西古松(世帯社員寮)完成
昭和46年	4月	旧プレス工場開設	平成17年	4月	セブンイレブン岡山平井4丁目店オープン ※ 御津第二寮完成
昭和47年	8月	新岡山港営業所開設(現、港工場)	平成18年	4月	(株)ヒラキン リサイクルステージ玉島開設
昭和48年	8月	水島営業所開設	平成19年	2月	リサイクルステージ玉島、ISO14001取得
昭和56年	8月	東岡山営業所開設	平成19年	3月	エヴァーワン玉島(独身・世帯社員寮)完成
昭和57年	11月	旧本社工場、旧プレス工場を岡山市下中野に移転	平成19年	11月	西大寺工場・技術開発センター開設
昭和60年	9月	神戸事務所開設	平成20年	2月	西大寺工場、ISO14001取得
平成元年	9月	旧米子営業所開設	平成20年	11月	国分物流センターオープン ※
平成3年	4月	港工場開設	平成21年	7月	水島営業所新事務所完成
平成7年	4月	本社・ヒラキンビル完成	平成22年	7月	水島営業所工場建屋拡張
	8月	神戸工場開設(震災復興対策期間)	平成22年	11月	玉島物流センター開設
平成8年	8月	立体駐車場ヒラキンパーキング完成 ※	平成23年	5月	スポーツデポ岡山伊島店オープン ※
平成9年	1月	岡山工場新築	平成26年	4月	平林 実 代表取締役社長に就任
平成11年	4月	大元寮完成	平成26年	5月	HIRAKINライズ球場リニューアル工事完了
平成12年	9月	おかやまモールオープン ※	平成27年	7月	えこ便西古松局開設
平成13年	4月	リサイクルファーム御津開設	平成28年	4月	えこ便安倍局開設
	8月	御津第一寮完成		9月	えこ便 グッドデザイン賞受賞「地域・コミュニティづくり/社会貢献活動」部門
	11月	セブンイレブン岡山藤崎店オープン ※		11月	えこ便 環境省 グッドライフアワード 実行委員会特別受賞
		HIRAKINライズ球場完成		12月	えこ便並木町局開設
平成14年	2月	本社、御津工場、ISO14001取得			
平成15年	2月	HIRAKIN環遊の会発足(取引先・業者の協力会)			

※自社保有の土地の有効利用の一環として展開している不動産事業

企業概要

■平林金属グループ
資本金 4億1,280万円(グループ合計)
従業員数 300名(グループ合計)

■平林金属株式会社
岡山県岡山市北区下中野347-104
TEL 086-246-0011 FAX 086-246-1100
E-mail honsya@hirakin.co.jp URL <http://www.hirakin.co.jp>
創業 昭和31年10月
資本金 9,980万円
代表者 代表取締役社長 平林 実
年間取扱量 250,000トン
事業内容 鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業
売上 120億6,000万円(2016年12月決算)

■8つの拠点
岡山工場・東岡山営業所・港工場・水島営業所
山陰工場・リサイクルファーム御津・西大寺工場・玉島物流センター

■えこ便
西古松局(岡山市北区)
並木町局(岡山市南区)
安倍局(米子市)

■グループ企業
株式会社ヒラキン リサイクルステージ玉島
ヒラキンテック株式会社
ヒラキン興産株式会社

主要取引先

(順不同、敬称略)

■主な仕入先
[公的機関]
国土交通省近畿地方整備局・中国地方整備局・四国地方整備局、防衛省中国四国防衛局、農林水産省中国四国農政局、海上保安庁第五管区海上保安本部・第六管区海上保安本部、警察庁中国管区警察局、(独)造幣局、大阪環境局・交通局・水道局、神戸市環境局、兵庫県・岡山県・鳥取県・島根県・広島県・香川県等の各市町村、他

[民間]
JR西日本、JR四国、川崎重工業(株)、三井造船(株)、大王製紙(株)、王子製紙(株)、中国電力(株)、四国電力(株)、(株)ディスコ、日本ゼオン(株)、ヤンマー農機製造(株)、山陰パナソニック(株)、(株)日立製作所、アサヒカルピスビバレッジ(株)、キリンビバレッジ(株)、(株)ヤクルト本社、他

■主な販売先
[商社関係]
伊藤忠メタルズ(株)、JFE商事(株)、日鉄住金物産(株)、東芝環境ソリューション(株)、豊田通商(株)、パナソニックETソリューションズ(株)、三井物産(株)、エムエム建材(株)、他

[金属関係]
東京製鉄(株)、JFEスチール(株)、JFE条鋼(株)、新日鐵住金(株)、山陽特殊製鋼(株)、アサヒセイレン(株)、住友金属鉱山(株)、DOWAエコシステム(株)、三井金属鉱業(株)、三菱マテリアル(株)、他

■家電リサイクル関係
(株)エコロジーネット、パナソニック(株)、(株)東芝、ダイキン工業(株)、他メーカー全19社

■主な取引銀行
三菱東京UFJ銀行、中国銀行、広島銀行、百十四銀行、他

私とヒラキンの出会い、そして「今」



えこ便事業部
野口悠子
2009年入社

初の女性局長としてえこ便並木町局に赴任、
気負わず、後輩たちと一緒に成長していきたい

私は女子ソフトボール部でキャッチャーとしてプレーし、2013年に引退。会社も岡山も大好きですが、ほかの先輩たちと同様に、引退後は郷里の千葉に帰って指導者を目指すつもりでした。そんなとき、「愛想が良く、声がよく通り、笑顔がいい」という理由で、「新規事業のえこ便をどうしても君にやってほしい」と社長から直接オファー。戸惑いや不安はありましたが、抜擢して下さった社長と、「野口ならできる」と背中を押してくれた先輩にこたえたいと、気持ちを切り替えました。とはいえ初めての接客業。当初は傷ついたり落ち込んだりすることも多々ありました。でもお客様に喜んでいただいたり、「いつも頑張ってるね」「その笑顔を見に来るんよ」とうれい言葉をかけていただいたり。お客様から得ること、学ぶことがたくさんあります。えこ便の使命を強く意識するようになり、課題や目標が見えてきました。2016年12月からは初の女性局長として、新しくオープンした並木町局に赴任。全体を目配り気配りして、後輩を育てる役割も加わりました。「気負わず、一緒に成長していけばいいんだよ」という先輩の言葉を励みに、新天地で頑張っています。

「安心」「便利」「おいしい」が岡山の魅力

- 1 災害が少ない
東日本大震災が起きた時、流山市(千葉県)の実家は放射能汚染や断水などで大変でした。岡山は地震だけでなく大雪や台風などの被害もほとんどありません。
- 2 県外への移動が便利
東京、大阪、四国方面、どこへでも公共交通機関が便利。移住先人気ランキングで上位なのもよく分かります!
- 3 食べ物がおいしい
何でもおいしい(笑)。特に果物。シャインマスカットを食べた時は感動しました。



岡山工場
樋口恭輔
2004年入社

ソフトボール一筋だった自分を採ってくれた
その恩に、今度は会社への貢献で報いたい

石川県の星稜高校から中京大学へ。ソフトボール部のキャプテンとして全国大会出場を経験しました。そんな自分に、大学の先輩である現監督の吉村さん(2002年入社)が声をかけてくれたのが会社との出会いでした。「岡山は遠いなあ」と思いましたが、練習会に参加させてもらうち、チームメイトの手柄に魅かれ「一緒にやりたい」と思うようになりました。ヒラキンで4シーズンプレーして引退。「ソフトボールはやるだけやった」。限界というか、満腹感を感じました。現役の頃は辛いこともあったけど充実感がありました。それとともに、一会社員として仕事もきちんとしたいとの思いが強くありました。引退後も岡山に残る決断をしたのは、ソフトボールしかしてこなかった自分を採用してくれた会社に対する恩を、仕事で貢献することで返したいと思ったから。同期入社で出会った妻と社内結婚して、新しい家族にも恵まれた今。会社に近く、とても便利な大元エリアにある社宅に住み、プライベートも充実しています。



便利な大元エリアで3LDK、家賃約3万円。
世帯向けマンション「エヴァーワン西古松」
毎日お風呂に入れるのが楽しみ

ヒラキンの企業スポーツスピリッツ

あいさつとマナーと笑顔で日本一を目指そう！
という合言葉が、強いチームを作った



「ヒラキンといえばソフトボール」と地元ではイメージが定着した感のある、男女のソフトボール部。創部は女子が2001年、男子が2002年。女子は2007年から5年連続で全日本クラブ女子選手権優勝を果たし、男子は2012年と2016年に国内主要タイトルの3冠を達成。また、日本代表に選ばれた複数の選手が世界を舞台に活躍するなど、地方の中小企業の部活動としては傑出した実績を残しています。

その最大の特徴は、男女とも「元気で明るく楽しい雰囲気」。監督と選手が丸となって戦い、ひたむきに勝利に向かう姿勢が、観る人の共感を呼び、社外や県外からも多くの声援をいただいています。また、日本リーグに所属するチームを

有していることが、会社の知名度アップにつながり、営業面のプラス効果を生んでいる面もあります。

二番目の特徴として、選手がみんな、ほかの社員と同様に通常の勤務をこなしていること。世界選手権で活躍するようなスター選手も、始業から終業までヒラキンの社員として働き、チーム練習に参加します。

三番目に、会社全体でチームを応援する風土。大きな試合になるとほとんどの社員が応援バスに乗り込み、スタンドに陣取ってにぎやかな応援合戦を繰り広げます。社員にとって選手は同僚であり仲間であり、試合になればあこがれや誇りの対象となる存在。応援にも自然と力が

入ります。

四番目に、スポーツを通じて地域社会に貢献できること。年に10回近く開催するソフトボール教室にはたくさんのお子もたちが参加し、選手たちのプレーや指導に触れて目を輝かせます。また、優勝するとホームページの掲示板へのアクセスが一日3000回を超え、「元氣や勇氣をもらった」という声がたくさん寄せられます。

チーム発足まもなくの弱小軍団だったときから「あいさつとマナーと笑顔で日本一を目指そう!」を合言葉にチーム作りを進めてきました。2014年の全日本クラブ男子選手権で、敗れはしたものの「ベストマナー賞」を特別授与されたことは、チームヒラキンの最大の誇りです。



リサイクルファーム御津
松田 光
2010年入社

千葉県出身。投手と打者の二刀流。ヒラキン入社は全国制覇に貢献。日本リーグにおいて、MVPをはじめ、投手部門で最多勝、打者部門で首位打者、本塁打王、打点王など多くのタイトルを獲得。本場ニュージーランドやアメリカのプロリーグでも活躍する。日本代表の中心選手としてアジア選手権優勝や、ISFワールドカップ優勝に貢献。現日本代表にして「日本男子ソフトボールの至宝」たる存在。

チーム一丸となって戦う姿に共感

個の力で戦う社会人チームが多い中で、ヒラキンは全員で声を出し、元氣を出し、チーム一丸となって戦っていた。そこに魅かれて入社しました。ヒラキンでプレーするようになって変わったと思うのは、ソフトがもっと好きになり、より真剣に取り組むようになったこと。チームの課題、個人の課題、相手チームと選手のこと、熱心に研究して、しっかり準備して試合に臨みます。社会人になって自分の成績が伸びたのは、それが理由でしょう。また、会社の理解で世界最強といわれるニュージーランドやアメリカのチームでプレーさせてもらい、ホームラン王や打点王を獲れたことも自信になっています。ソフトボールを続ける環境として、オーナーみずからここまで力を入れてくれる企業はほかにありません。皆さんの期待にこたえるためにも、勝ちにこだわり、全国優勝と個人のタイトルを獲りにいきます。

「好きなこと」で会社に貢献できる



「撮りたかった絵」が
会社のカレンダーに

港工場
小松原 正博
1996年入社

仕事一筋だった自分が、趣味を持ちたくて軽い気持ちで始めたカメラ。最初は目に見えるものをただ撮っていたけれど、今は「こういう絵がほしい」と思ってアングルにもこだわるように。ソフトボールのゲームでは1試合に1,000枚近く撮ります。スタンドを縦横無尽に動いて、投打と守備の決定的な瞬間を狙う。プレー中でなければ見せない同僚の表情も逃しませんよ。



撮影した写真が採用された会社のカレンダー



仕事も「うらじゃ」も
楽しめないと意味がない

えこ便事業部
中村 隼也
2011年入社

わが社の「リサイクルダンサーズ」は、「うらじゃ」最多出場の踊り連。2014年は初めて隊長の大役を引き受けました。入社1、2年目の社員は全員参加。先輩たちも協力してチームを盛り上げてくれます。サポートスタッフを含めて40人近い人をまとめるのは大変だし、仕事を終えてからの練習はしんどい。でも、やって後悔する人はいません。何より本番が楽しいから。



はっぴの背中には「鉄」の文字

「好きな野球」を続けています!

軟式野球部

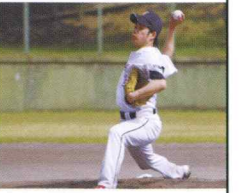
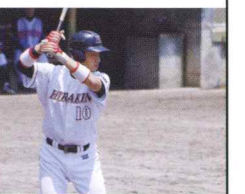
部員数の増加などにより、現在、「平林金属」「平林金属レッドナゲッツ」の2つのチームが活動しています。甲子園経験者など強豪校出身者も多く、ベテランから若手まで年齢の幅が広いのが特徴。好きな野球を続けられる恵まれた環境のもと、職場の違う者同士、情報交換の場としても刺激になっています。



- チーム名 平林金属
全日本軟式野球連盟 岡山県支部岡山地区Aクラス所属(2005年加盟)
- 主な戦績
2012年 第45回中国五県軟式野球大会(一部)中国大会 優勝
2010年 第32回西日本軟式野球大会(二部)全国大会出場



- チーム名 平林金属レッドナゲッツ
全日本軟式野球連盟 岡山県支部岡山地区Bクラス所属(2011年加盟)
- 主な戦績
2015年 第37回西日本軟式野球大会(二部)全国大会出場





えこ便事業部
 築谷 有理沙
 2015年入社

「経験の数だけ成長する」と思って
 課題をゲームのようにクリアしていこう

小学校5年生で環境問題の冊子を読んで、環境を守る仕事に就きたいと思いはじめました。道で空き缶やゴミを見つけると「ここになくていい」と感じて、拾って家に持って帰ったり、近くのゴミ箱に捨てたり。自分では当たり前感覚です。

私が進学した環境系の大学は、社会人になった先輩がちょくちょく大学を訪ねてくれるんですが、その中にいつもテンション高く、身振り手振りで会社の話を楽しそうにする先輩がいて、一度その会社に行ってみたいなぁとそれがヒラキンです。説明会で「釘一本見逃さない」社風や人の手で分解選別をしている話を聞き、自分の価値観と重なりました。

入社後は岡山工場で受付業務の一方、えこ便事業部に配属。就活であれほど避けた苦手の接客業に就くなんて……不安でした。案の定、マニュアル以外の反応をされて頭の中が真っ白になったり、お客様の質問に答えられなくて知識の足りなさを思い知らされたり、初めは心折れることばかりでした。でも、一生懸命にやっていることをほめていただいたり、ありがとうと言っていたり。2カ月もたつと、えこ便の仕事にやりがいを感じるようになりました。何より、新しいことを学んだり経験したりする毎日が楽しいです。

2016年12月からは、岡山で2店舗目の並木町局に配属。メンバーの中で、えこ便の経験者は野口局長と私の2人だけ、責任重大です。まだまだ分からないこともあるし、へこむときもあるけれど、「経験の数だけ成長する」と思っているのも、たくさん経験することでいろいろな課題をゲームのようにクリアしていこうと前向きにとらえています。

ヒラキンは、真面目でいい人たちが集まった会社。仕事や部署の垣根を越えて自然にフォローしあう関係があり、みんなで乗り越えていくチームワークが魅力です。



自然に笑顔で接客できるようになりました



リサイクルファーム御津
 川邊 郁也
 2012年入社

リサイクルは思っていた以上に奥が深く
 同じことをやっていたら発展はない

地元の高校、大学で野球をやってきた僕に、「ヒラキンと一緒に野球をやろう」と誘ってくれたのが1つ上の先輩。職場は若い人が多く、スポーツをしている人の割合も高いので、仲間と話が合うのがいいですね。高校時代は勝つことが第一義だった野球も、今は楽しみながら、できるだけ長く続けたいという気持ちでやっています。

入社後は、御津の工場です。当時立ち上がったばかりの新規プロジェクトに抜てきされ従事することになりました。冷蔵庫の破砕後の混合プラスチックから、金銀銅資源を取り出し、プラスチックを原料化するラインです。機械に投入する量が多すぎると詰まったりあふれたりするため、1回の投入量の調整も必要で、少しずつ適量を見極めていきました。

プラスチックの分別には水の比重、風、振動などに加えて、今は近赤外線反射光なども利用して精度を上げる努力をしています。4人のチームで考えを出し合って、少しずつ改良を重ね、完成形に近づいているという手ごたえがあります。

学生時代は野球しかやってこなかった僕だけ、リサイクルの仕事は知識を自分の力に変えていけるもので、思っていた以上に奥深いと感じています。だからこそ自分から興味を持って取り組まないと先はないし、現状に満足して同じことをしていたのでは会社の発展もないと思うようになりました。例えばラインの改良によって、より純度の高い、品質の良い製品ができれば、製品の価値を高めることになります。

現状維持ではなく、1つでも上を目指す。それが今の僕の目標であり、そのためには周りとのコミュニケーションや協力が不可欠だと思っています。

考え方に共感するところがたくさんある社長のもとで、同じ方向を目指しながら頑張ることで恩返しを。こんな僕を探ってくれたヒラキンに骨をうずめるつもりです。



プライベートでは結婚して1児の父となり、マイホームも建てました



リサイクルステージ玉島
 齋藤 綾
 2009年入社

職場の人間関係がすごくいい。
 女性にも活躍の場がしっかりとあります

私は入社以来ずっと玉島工場に勤務してきました。職場は少数精鋭、和気あいあいとしたアットホームな雰囲気。良き先輩後輩に恵まれていると感じています。2013年12月に結婚してからは仕事と家庭の両立が結構大変だったのですが、周りの人から、ローテーションで運番の日でも「帰れるときは早く帰っていいよ。しっかり休んでリフレッシュして来て」と言ってもらって、とても気が楽になりました。繁忙期は少し遅くなることもあるし、通勤時間が少し長くなったけれど、5時起きでお弁当作りもこなしながら仕事を続けていられるのは、周囲の理解と協力があればこそ。ときには愚痴を聞いてもらい、ときには叱ってくれたりアドバイスをしてくれる。職場の人は私にとっては家族同然、お兄ちゃん、お姉ちゃんみたいな存在なんです。

私は両親とも鉄関係の会社に勤務していたので、金属のリサイクルに関心があり、ヒラキンの入社試験を受けました。面接の順番を待っているとき、社員の人がお茶を出してくださったり、緊張をほぐしてくださったのが、とても印象的でした。試験もゲーム感覚のものやグループワークがあって楽しい雰囲気でした。

仕事では、事務方として受付にいて、荷物を積んだトラックの伝票作成を主に担っています。荷物を降ろす前と後に計量して、積み荷の重量を計算します。数字を扱うので間違いは許されません。トラックが一度に何台も並ぶと、伝票もズラリ。同時進行でたくさんの伝票を扱うことになるので、効率良く進めて忙しい時間を乗り切ったときは達成感も大きいです。現場だけを見ると男性の活躍が目にもいかに見られませんが、女性にも活躍の場はあります。自然な笑顔。それも私が会社に貢献できることの一つかな。

近い将来、子どもを授かってもしヒラキンに残りたい、育児休業をとって職場復帰したいという気持ちがあります。



職場の家族的な雰囲気に公私ともに助けられます



本社
 亀高大吾
 2007年入社

平均年齢が若く、社員にパワーがある
 会社にも市場にも可能性が眠っている

商業高校を経て、大学も商業系に進学したにもかかわらず、簿記などの資格は最低限しか取得してなくて、「自分は体を動かす仕事の方がいい」と思ってヒラキンに入りました。入社1年目の12月に、完成したばかりの西大寺工場に配属。4人のうち3人が新人というプロジェクトチームで、ミックスメタルの分別を勉強しました。選別の工程をどうすればいいの、機械の順番をどうすればいいの、考え工夫しながら仕事をするという大切なことを学ばせてもらいました。

本社に移り、総務・経理の仕事をするようになってからは、1枚の伝票で大きなお金が動くことに気がつきました。電卓のミスが社員の生活に直結し、社員の家族の暮らしに影響を与えてしまう。処理のスピード、ミスのない正確さが必要です。また、本社は会社の顔です。お取引先のお客様と接する機会が多く、会社を代表しているという自覚も持たなければなりません。

2016年の春には、創業60周年記念事業の一つである新基幹システム導入プロジェクトのリーダーを任せられました。事務作業の簡略化と工場間での情報共有化を図り、営業や経営戦略にデータを生かせるシステム構築を目指した、重大な任務です。システム導入後の社内のルールづくりも必要です。プロジェクトメンバーでは私が一番年下ですが、その場その場で自分が判断しなければならない。おかげでジャッジのスピードは格段に速くなりました(笑)。

ヒラキンの平均年齢は33歳。若くて元気があります。これから何かを興していくために必要な「人のエネルギー」がまだまだ現場に眠っていると思います。また、総合リサイクル企業であるヒラキンには、掘り起こされていない需要がたくさんあるはず。可能性が市場でスタンバイしているのです。リサイクルという言葉は響きがいい。でも実際の現場は汗水流して、ほこりまみれの仕事です。それでも一緒に頑張ってみようという意欲ある人よ、若手にチャンスを与えるヒラキンへ!



財務のことなら安心して任せてもらえる存在になりました

AWARD

住みやすい街づくりのために、何が必要だろう。どうあれば、喜ばれるだろう。

事業立ち上げのときから大切に考えた、エコ便の「デザイン性」「利便性」「環境性」が、公的機関から高い評価を受けました。



「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」部門で 2016年度グッドデザイン賞受賞

日本初の有人施設型の資源回収システムとして、利便性、常駐スタッフによるコミュニケーション、デザイン性、違法回収などの問題を考えさせる社会的啓蒙活動である点が、高く評価されました。



環境省主催 「第4回グッドライフアワード」環境と循環部門で 実行委員会特別賞受賞

持続可能な社会の実現を目指し、市民と協力してリサイクルを進める新しい取り組みが、市民参加型資源集積プロジェクトとして評価されました。



岡山県岡山市北区下中野347-104 TEL 086-246-0011
URL <http://www.hirakin.co.jp>